

学校法人 筑紫海学園
 香椎幼稚園
 〒813-0003 福岡市東区香住ヶ丘1-2-3
 TEL 092-681-3320
 ホームページ
<http://kashii-yo.on.arena.ne.jp/>
 同窓会ホームページのリンク集からもアクセス可

筑紫海会会報

同窓会HP「筑紫海会」 <http://www.tukusimikai.org>

発行者 **福岡女子大学同窓会 筑紫海会**
 発行所 〒813-0003 福岡市東区香住ヶ丘1-2-3 香椎幼稚園内
 TEL・FAX (092)671-6360
 振替口座01780-7-26212
 印刷 樋口印刷

絆を深める 同窓会に

筑紫海会会長 山本津弥子(大8回)

「香住ヶ丘に朝は来ぬ」福岡女子大学校歌を平成23年度入学式で歌いながら50年前と同じこの地で歌っていることに一人の感慨を覚えました。倉野先生、目加田先生、松田先生、井手先生、鈴木先生、お名前を挙げればきりがありません。皆さんの方々のお顔が浮かび、ご迷惑を掛けたいと思ひ出しました。

新生福岡女子大学がどんな形であれ、どのような場所であれ、時代の要請を受けながら変わっていくのはごく当然のことと受け止めていた者にとつては、出発の地が、うれしき限りです。



古屋副会長、山本会長、高木副会長

「温故知新」先輩の思いを感じながら、時代の要請に答えることの出来る「同窓会」とは、を探したいと思います。

筑紫海会本部の組織、「総務部」「組織部」「広報部」「事業部」「生涯学習部」の五つの専門部会が「時間・労力・財力・知恵」を少しずつ出し合っ、同窓生の繋がりを確認しながら会務を遂行します。

数年前から「同窓会筑紫海会」と「学校法人筑紫海学園」とは、別組織で運営されていることをはっきりするために、総会の報告の仕方、会報の記事の形で示したり、いろいろな機会を通して説明してきました。本年度から「学校法人筑紫海学園」の理事長は、上村元子さん(大6被)が就任され、私は同窓会の会長に専念する形になりました。

季節はずれの台風接近による荒天の中、5月29日(日)西鉄グランドホテルで筑紫海会総会が開かれました。

開会の言葉、物故者への黙祷の後、会長挨拶。福田会長から当番学年へのお礼、東日本大震災義援金の報告、福岡女子大学の国際化推進基金の報告と謝辞ならびに継続協力要請、年次会費納入協力要請がありました。

各部の目標
 ・総務部 年会費、入金金納入増加の促進
 ・組織部 支部長会・同窓生ツアーに参加して大学の現状を知る。

同窓生ツアー 思い出の大学見学会

日時 平成23年11月5日(土) 10~14時 大学構内

内容
 ・昔なつかしい校舎見学と「かすみ祭」参加
 ・国際学友寮「なでしこ」施設見学
 ・講演「新生福岡女子大学」について
 ・交流会

会費 2,000円(昼食のお弁当を用意します)

申込締切日 10月20日(木)

申込みはハガキ又はファックスで
 同窓会事務局 Fax(092)671-6360
 住所・氏名・電話番号・卒業年次をお書きください。
 参加希望者には後日詳細をお知らせします。

退任にあたって

前筑紫海会会長 福田順子(大8回)

私は平成19年から、2期4年間、同窓会筑紫海会会長並びに学校法人筑紫海学園理事長に任じられ、この度任期満了に伴い退任いたしました。会員の皆様には惜しみないご支援とご協力を頂きまして誠に有難うございました。心から感謝申し上げます。

この短い任期中に、福岡女子大学の改革、つ

くしみ山荘の廃業、香椎幼稚園の閉園など全く予期しない大きな課題が次々と起りました。急速な少子高齢化およびグローバル化が進展する社会における丁度過渡期だったのではなか、大変忙しい緊張した日々でしたが、色々々貴重な体験をさせて頂きました。皆様の温かい支えに助けられて無事に任期を終えることが

できました。

支部総会、同窓生ツアーなどに出向させていただき、各方面でご活躍されている諸先輩、後輩の方々とも幅広く交流ができましたこと、お知り合いになれましたことを大変うれしく思っています。同窓の絆の温かさ、大切さを改めて再認識しました。

退任にあたり、皆さまの弛みないご厚情に感謝申し上げます。同窓会筑紫海会の益々のご発展をお祈りいたします。

4、平成23年度事業計画案

1、平成22年度筑紫海会事業報告
 2、平成22年度筑紫海会会計決算報告
 3、役員改選
 会長選挙委員長より山本津弥子さん(大8回)の選出を報告

「色を着る」ファッションを楽しむ「自分流のおしゃれ」北九州支部長で北九州ファッション協理理事をしておられる 花崎正子(大10被)氏と丹田順子氏が講演されました。

総会当番を終えて

当番委員長 木原博美(大19被)

昨年度の総会終了後の新旧当番の引き継ぎで、仮準備委員長を拝命しました。正式には6月26日の「総会当番引き継ぎ」にて決定しました。そこで当番の役割と仕事内容の確認、組織と活動内容の分担、総会参加者数の目標設定をし、各学年・クラスで努力することを確認しました。実質的に活動が始まったのです。その後総会前日までに準備委員会全体の会議は4回行い、互いに各係の進捗状況を確認しました。しかしその間に充実した総会と楽しい懇親会の

進行を願って、各々担当の仕事を進めたり、関係のある係同志で横の調整を図る為に話し合いをし連絡をとり合ったりしました。

当初には総会準備委員が少ないのではないかと、3月の東日本大震災を受け参加者が減少するのではないかと、心配しました。しかし筑紫海会会員の結束は固く、各々の工夫や働きも確実で、心配は杞憂に終わりました。あらためて福岡女子大学同窓会の一員であることに感謝いたしております。

波紋

「お茶飲みをしませんか。菓子袋1つ程度お持ち下さい。」と近所の方々のポストにピラをいれる。2ヶ月に1度、回覧板を回す範囲と決めている。7、8人の方が来てくださる。東日本大震災の後、人の絆の大切さがいわれるが、私たちの絆はすでに出来ていると思う。道路の穴ほこを修理したらどうだろうか、空き地の草取りをしようかと話はずむ。自分自身はこんなにお節介な性格だったかと思うが、筑紫海会鹿児島支部の支部長も引き受けて12年になる。会員数が少ない支部で、支部総会は隔年の開催だが、1人でも多くの方に参加してもらいたいと毎回知恵をしぼる。今年は親睦会を開き、窯元訪問をした(大19国新納さん宅)。

初めて参加された方もいて、島山さん(大30被)から、次のような嬉しい感想文をいただいた。「いつも案内はいただいているけど」と、考えてばかりでまだ参加されていない方、是非、参加をお勧めします。少しだけ青春時代に帰ることが出来る自分だけの時間・空間を、世代の違う方々と一緒に過ごすのもいいものでした。」▼また頑張ろうと思えます。

友清 政子(大17回) 鹿児島支部

平成23年4月、梶山千里学長(理事長)が就任されました。今回のインタビューでは、就任に当たった抱負を中心に、学生へ贈るメッセージや同窓会に望むことなどをうかがいました。

「ここまでは、特に『国際化』への熱い思いについて一部掲載させていただきます。」

「コミュニケーションツールとしての『英語』」

国際的なことを言うと、「自分と違う人がいる」ということ、それが分かることが国際化なんです。多様性を知ること、民族の違い、言語の違い、ましてその政治・経済・宗教も違うわけですから、そういう多様性を理解できるといいこと。

これに関しては、国際的・国内的の区別はありません。自分と違う人がいるということも「理解」し、「許容」するということ。「国際的」というカテゴリーを使わずとも、他人を受け入れる第一関門です。

その上で「国際化」に目を向けると、そのためにはコミュニケーションをしっかりとやってほしい。だから語学をきちんとしなさいと言っています。何も難しいことを言っているわけではあります。

「多様性を理解するにはコミュニケーションが重要と実感できれば、英語あるいはそれ以外の外国語をきちんと学習しなさい」と、そういうことです。

平成18年に大学法人と

なりましたが、法人化では大学設置者が「中期目標」を示し、それに対して大学は「中期計画」を出し、両者すり合わせの上、6年間の行動を決めるという制度になっています。

目標計画ですから、やはり多少高めの所に定めたいと考えて話をしますと、4年の卒業までに、TOEFL550、TOEIC750※というところでしょう。

※英語を母国語としていない人々の英語コミュニケーション能力を測る世界共通テスト

アメリカのごく普通の州立大学に入学する基準値です。これをクリアしないと留学できない。あくまで努力目標ですから、そこまでいかなかったら、自分たちがもう少し努力すべきだったと反省すべきであって。

普通にやっていたら達成できる目標なんて、設定する意味がないと、私は考えるのですが。

今私は文科省に「二段階留学」というものを提唱しているのです。第一回目の留学は、自分がいかにコミュニケーションできないか、日本の文化・歴史を知らないかを自覚する、気づき短期留学です。

外国に100人留学するでしよ、そうするとほぼ100人全部、勿論私が行っても同じような感想ですよ。それを口で言っても分からない。自分で行って、苦労しないと。

そういうわけで、これ、2週間という短期間でいいのです。そうすると向

上心が出て、必ず自分で努力しますから。そこで努力した後に正規の留学をする。

実は文科省が今年から「シヨートステイ」(外国からの留学)、「シヨートビジット」(外国への留学)の金銭的支援を行うことになり、私のいた日本学生支援機構が世話しております。

福岡女子大にもちゃんと120名分の枠が確保できているんですよ。県の方からもスリランカへ10名用意してくれていますので、あわせて130名、シヨート

ていこうと考えています。地域への貢献、アジア、世界へ向けて

私が福岡女子大の使命としてあげていることが二つあります。第一に、リーダーシップを持ち国際的に活躍できる人材を育成すること。第二に、地域の学術・文化そして日常生活に貢献すること。

この二つが新生女子大建学の精神と考えても良くて、これに基づいて教育を進めて行く。そのためには、実は「アジア」と

活躍できるのは、女性であれ男性であれ同じことですから、女子学生に国際的に活躍できるように教育をするといううのはなく、国際的に活躍できる人材をどうやって養成するか、そして最後に国際的なベースで見て、女性と男性と比べて何が有利か、それを考える必要があります。

最初から、女子学生に国際的なセンスや、感性を育てたり、教えることは必要ありません。最終的なところで、女子大の特徴を生かせればよいのです。

男女に関係なくしっかりと国際的な感性を持つための教育をしておいて、そして女子学生の特徴を付け加える。そうすると女子大の特徴が生きてくるわけです。

梶山千里学長



インタビュー

トビジットができるの、せつかくの機会ですか、130名全員行かせたいと、応募・選考を進めていくところですよ。また海外の大学との交流協定も、今期5校増えましたので、現時点で12ヶ国17大学です。今世界に女子大といふところはあまりありません。高いレベルにある大学との提携を、身の丈で増やし、交流の中から更に良いプログラムを提供する。学生が「行ってよかった」と思える形にし

「世界へ向けて」というその中に「アジア」がある。アジアの中でリーダーになるのも勿論重要ですが、日本の中においてもっと存在感を出してほしい。まあ、最終的にはやはり「世界で」と

私、特に、女子大だから、という気持ちで教える必要はないと思ってるんです。国際的に

「世界へ向けて」というその中に「アジア」がある。アジアの中でリーダーになるのも勿論重要ですが、日本の中においてもっと存在感を出してほしい。まあ、最終的にはやはり「世界で」と

私、特に、女子大だから、という気持ちで教える必要はないと思ってるんです。国際的に

平成23年度後期 福岡女子大学公開講座

【土曜公開講座】外国人が見る日本文化 ～国際化と異文化理解～

福岡女子大学図書館1階 視聴覚室
平成23年5月～平成24年2月の毎月第2土曜日開催(1月は第3土曜日)
13:30～15:00 定員なし 受講料3,000円(全10回分) 高校生、本学学生無料

日程	テーマ	講師
10/8	韓国における儒教思想と国際化	馬 昌珍 福岡女子大学准教授
11/12	文化で見る日本と中国	張 艶 福岡女子大学准教授
12/10	音楽と政治 ～ナチ時代の音楽と政治をめぐる断章～	吉田 信 福岡女子大学准教授
1/21	グローバル化と女性の移動	宮崎 聖子 福岡女子大学准教授
2/11	異なる国や地域での対日感情と異文化理解 ～東南アジア、アフリカ、大洋州滞在の経験から～	水元 芳 福岡女子大学准教授

【秋季公開講座】食べる、生きる、楽しむ～健康に生きる秘訣とは～(全6回)

福岡女子大学附属図書館1階 視聴覚室
13:20～16:00 定員なし 受講料2,000円(全6回分) 高校生、本学学生無料

日程	テーマ	講師
10/12(水)	病院での栄養管理について	中村 強 福岡女子大学教授
	子供のすこやかな成長のために～東ティモールを事例として	水元 芳 福岡女子大学准教授
10/19(水)	農産物の安全・安心 ～あなたは有機栽培派?植物工場派?	新開 章司 福岡女子大学准教授
	カミカミでしゃっきり～噛むことと食べ物	高橋 徹 福岡女子大学准教授

【自由企画講座】

福岡女子大学多目的ホール、図書館1階セミナー室・視聴覚室 受講料無料

日程・定員	テーマ	講師
11/2、9、16(水) 14:00～16:10 定員25名	キーワードから理解するオランダ	吉田 信 福岡女子大学准教授
11/11、18、25、12/2(金) 14:40～ 定員なし	日独交流150周年記念特別講演会～日独交流を考える	S.ホルスト 福岡女子大学准教授 森 邦昭 福岡女子大学教授 望月 俊孝 福岡女子大学教授
12/7(水) 14:40～16:40 定員25名	名人の芸を味わう	吉田 信 福岡女子大学准教授

【福岡女子大学地域連携センター特別講演会】

付属図書館1階 視聴覚室 16:30～17:50(受講料無料)
12/1(木) 宮原富士子さん (株)ジェンダーメディカルリサーチ代表取締役社長
1/11(木) 森崎 和江さん 詩人、ノンフィクション作家、福岡女子大学OG

申し込み・問い合わせ先 福岡女子大学 女性生涯学習研究センター

〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1-1-1
TEL/FAX: 092-661-2728(直通)
TEL: 092-661-2411 FAX: 092-661-2415(代表)
E-mail: rcle@fwu.ac.jp URL: http://www.fwu.ac.jp/rcle/

《受講方法》 対象: 高校生以上、性別不問

ハガキ、FAX、またはE-mailにて、受講講座名・住所・氏名・年齢・職業または高校名(学年)・電話番号を記入の上、右記へお申し込みください。申込受付者は全員受講できますので、受講票等の発送はいたしません。定員を設けている講座は先着順です。



閉園を迎える時に 思うこと

園長 田北 和子(大23理)

香椎幼稚園は昭和30年(1955年)に開園して57年間、地域の皆様に支えられて幼児教育を続けてきました。来年3月に最後の卒園式を迎えると合計4959名の卒園者を出すことになり、同窓会の方々のすばらしい力を結集して幼稚園が開園できたこと、またこれまで続けられてきたことを大変感謝しております。一般的に現在の日本では、母親が働いているいないにかかわらず「子育て」を他人にまかせるとい

う感情を多く感じてくる人、と感じられます。また、人と接するコミュニケーションが苦手な人が増えているのも事実です。子どもを取り巻く数多い不幸な問題の現状を考えたとき、子ども達を育てるまわりの人たちが様々な愛情を受け、「ほくこと、わたしのことを大好きになつてくれる人がいるんだ」という感情を



昨年の餅つき大会。家族総出!

乳幼児期の子どもの中で育てていくことの重要性が言われています。私は、両親だけではなく祖父、祖母、近所の人、そして保育者、それぞれが違った愛情を子ども達に注ぐことが大切だと思っております。様々な愛情を子どもに注ぐことができる地域作りや保育環境をこれまで与え続けてきた香椎幼稚園の存在の大きさを、閉じる時になって感じています。今年12月は最後の餅つき大会です。お父さんの出番です。卒園生も大勢来てくれることでしょう。

理事 上村元子(大6被) 常務理事 小辻芳子(大12理) 児玉雅子(大24国)

学校法人筑紫海学園理事会は平成20年7月に「つくし山荘」を廃業、新たに24年3月「香椎幼稚園」閉園、学校法人の解散を決定しています。

現在、山荘跡地の売却、幼稚園教職員の解雇条件の合意など難問が山積し、また、法人の事業として「香椎幼稚園、つくし山荘」の記念碑を母校キャ

平成22年度学校法人筑紫海学園の収支は収入に対し教職員人件費の率が大きくなっています。全体では900万円余の欠損ですが、これまでの積立金で補填が可能です。(上村元子)

学校法人 筑紫海学園 だより

学校法人筑紫海学園理事会は 香椎幼稚園を閉園し、 学校法人を解散します

今年6月、理事 山本津弥子(大8国 会長) 大音恵子(大10理) 今村明美(大13食) 田北和子(大23理 園長) 足立直美(大30理) 光吉佳代(大31国) 福田澄江(大15国) 今地とし子(大22被) 別府きみ(大37国) 他に評議員会(法人職員、保護者を含む19名)があります。

香椎幼稚園(山荘を含む) 22年度収支報告

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	決算
保育料他*1	19,396,500	人件費*2	38,335,280
寄付金	74,000	一般経費	12,328,740
補助金(県、市)	21,638,600	減価償却	2,259,457
取利息	1,263,847	基本金組入	69,500
事業収入他	1,516,023	次年度くりこし	△9,104,007
計	43,888,970	計	43,888,970

*1 他は入園料、及び施設費 *2 教員、職員、法人職員の諸経費

お願い

学校法人筑紫海学園理事会は、学校法人解散に際し記録のための小冊子発行を計画しています。香椎幼稚園、つくし山荘の写真等をご提供頂ける方は法人理事会までご連絡ください。皆様のご協力をお願い致します。

福岡女子大学国際化推進基金 ご寄附ありがとうございます

759名 14,938,000円 8月31日現在
7団体 646,000円 (同窓会関係分)

福岡女子大学国際化推進基金へご寄附有り難うございます。寄附金の要請後、早々と寄附金が寄せられています。

募金目標額(同窓会)
1億円…10年間(2011~2020年)

募金の趣旨をご理解の上、今後もよろしくお申し上げます。

※事務局(TEL・FAX 092-671-6360)に振込用紙を用意しています。通信欄のチェック項目を確認して払い込みをお願いします。

東日本大震災義援金

「東日本大震災」犠牲者の方々の冥福をお祈りし、被災者の方々に心からお見舞い申し上げます。

同窓会は理事会で承認を得、総会で報告済みの100万円と総会時の募金40,800円を合わせた1,040,800円を西日本新聞民生事業団を通し「東日本大震災」へ寄附しました。

寄附の報告と募金のお礼を申し上げます。

東日本大震災
救済金寄託者
西日本新聞民生事業団
【27日】104万8000円
福岡女子大学同窓会筑紫海会(東区)

6/28 新聞掲載



国際文理学部
国際教養学科1年
中村 侑乃

こんにちは、国際教養学科1年の中村侑乃です。今年度の学部再編にあわせ、私たち新入生は「国際学友寮 なでしこ」で共に生活を送っています。入学したての頃はルームメイトとうまくやっていけるか、大学の授業とは何をするのか、また試験はどのようなものかとみんな不安だらけのスタートでしたが、共に学び、共に暮らすことで今ではすっかり女子大生の顔になりました。また留学生の友達にも恵まれ、学部学科名の通り「国際」というものを肌で感じています。入学してから早や半年の時間が過ぎてしまいましたが、これからも大学・寮生活を思い切り楽しみたいと思います。



国際文理学部
環境科学科1年
甲斐 愛梨

福岡女子大学に入学してからたくさんの新しいことに出会いました。特に寮での生活は初めてだけで、日々頑張っています。私は今、寮をよりよくするための、フロアリー

大学だより

国際学友寮 なでしこ

一年生は全員寮生活 その様子は...

寮生活でのいいところは、いつでも友達とすぐそこにいるということです。部屋に帰ってくると、ルームメイトが「おかえり」と言ってくれたり、みんなで料理を作って夜ご飯パーティーをしたりもしています。全てが初めてのこの寮を築き上げることにやりがいを感じています。



国際文理学部
食・健康学科1年
高井 美希

私がこの大学に入学して、半年がたちましたが、やっと大学にも少しずつ慣れてきて、とても充実した生活を送っています。寮での生活も初めは不安でしたが、ルームメイトともすぐに打ち解けることができ、一緒に勉強したり、中国人の留学生から中華料理に教わったりと異文化交流もできて毎日とても楽しいです。また、日本と中国にはさまざまな文化の違いがあり、話を聞いているうちに中国に関心をもつようになりました。こうして異文化交流を行うことは初めてだったので、こういう機会を持つことができるととても嬉しいです。この縁を大切に、そして、これからまたさまざまな国の留学生と友達になることが私の今の目標です。



支部だより

毎年、各地域で支部総会が開催されます。今回は3支部の様子をご寄稿いただきました。会員の皆様、どうぞ、お気軽に、お近くの支部へご参加下さい。
(各支部連絡先は6面参照)

北九州支部総会 2011.6.26 小倉リーセントホテル

久留米・筑後地区支部は、例年通り6月25日(土)ブリヂストンクラブで総会・講演・懇親会を開きました。本部から山本津弥子会長に出席いただき、56人が集いました(最高齢は女専18回生)。

総会で活動・会計報告、会則の一部改定と支部長選出(一度に10歳若くなりまし)をした後、講演に移りました。今回は『古代の筑紫(つくし)と朝鮮半島』講師は久留米市在住、日本の古代史の研究者で幾つもの市・町史編纂に携わっておられる田中正日子先生です。



久留米・筑後地区支部総会 2011.6.25 ブリヂストンクラブ

同窓会の名称である「筑紫」を(つくし)と呼ぶいわれ、その中に多く点在している身近で歴史的な場所の地名や位置関係について、筑紫平野側からの視点から、大和朝廷との、そして朝鮮半島との関わりを通して話されました。



講演中の鉄川進氏

時間的・空間的にもスケールが大きい内容で、この限られた紙面にうまく纏めることは難しいのですが、その中では、古代から「筑紫」は(つくし)と呼ばれていたこと、九州の呼称、また筑前・筑後を指すこと。「倭」

「つくし」のいわれ

久留米・筑後地区支部長 河野 孝子(大17食)

「筑紫」を(つくし)と呼ぶいわれ、その中に多く点在している身近で歴史的な場所の地名や位置関係について、筑紫平野側からの視点から、大和朝廷との、そして朝鮮半島との関わりを通して話されました。

「日本」という呼称の由来と「にはん」について、重労働を担った女性「にはん」のいづれも可であること。韓流ブームの今、韓国側から『日本書紀』を読み直すことが必要であること。

歴史学は一場面を切り取る考古学とは異なること。私たちの同窓会地区には多くの古墳があふく等々。私たちが日々頃接している場所や地名が、古代から綿々と繋がって、今も存在していることに、古来(いにしえ)のロマンと愛惜を感じました。

一回の講演では物足りない、今回の講演に出てきた場所を巡る「歴史ツアー」を講師にお願いしたいという要望が出されました。

講師は毎年専門性に優れ、個性溢れる内容で大変好評、しかもそのいづれの講師の方も同窓生かそのご夫君という方たち、「筑紫海会」の人材の豊かさを表しています。

懐かしい顔に再会し、お互いの健康を確認し、同じキャンパスで4年間を過ごしたという安心や繋がりを感じ慈しむことのできる6月の第4土曜日・ブリヂストンクラブは、久留米・筑後地区会員にとって楽しく豊かな一日となっています。



82年の歴史に重さと彩り

東京支部長 岡部 純子(大15英)

ことが恒例になりました。活動は、10年ほど前までは新年会もありましたが、現在は、総会(5月)、支部報発行(7月)、親睦会(10月)が3本の柱です。



同期友人たちと、下段中央が岡部さん

食生活の講演、ウクレレやラテン・ハープ演奏など多彩です。今年、東京芸術大学に在籍されている3人の演奏家による音楽会。パトリック中俊太郎さんの『荒城の月』が心に響き、平中麻貴さんのソプラノ「からたちの花」に心洗われ、斉藤優奈さんのピアノ演奏『幻想即興曲』(ショパン)には指先の魔法にかかり、時の流れを忘れま

した。あつという間に『この道』(山田耕作)でフィナーレを迎えました。秋の親睦会は、年々盛会で申し込みが殺到しました。10月27日、おしゃれで素敵なフランス料理、西麻布一軒家レストランの「キヤード・ド・ひらまつ」を用意してくださいました。

7月に発行した支部報の原稿確認、校正も主としてメールでの作業。すごい！早い！上手！皆さんの有能さに驚きました。こうして列挙すると、本当に大変なお仕事です。

ね。会員の減少、生活環境の変化もあり、お当番の方々の負担が重くなっているのが現実です。先輩の心強いサポートの申し出もあり、単学年でのお当番が上手にバトンタッチされているのが東京支部の特徴です。

した桐潤子様を、本年度から引き継ぐこととなりましたが、先輩諸姉の築かれた伝統に、皆様の新しい温かな風が吹き込まれて、守り継がれていきますよう願っています。



会場はオペラの熱唱にうっとり

長崎の教会群を世界遺産に!!

長崎支部長 二羽 喜代美(大18被)

6月26日(日)に長崎支部総会があった。本部から高木副会長を迎え、参加者16名という小ささか寂しい状況ではあったが、なごやかにすめられた。

長崎支部では総会と親睦会を一年ごとに開催している、昨年の親睦会は本部企画の同窓生ツアーと合流して「長崎に龍馬の足跡を訪ねて」のテーマのもと長崎を歩き、多くの参加者との交流を深めることができた。

今年度の総会には講師に一級建築士の鉄川進氏を迎え、「長崎の教会群について」と題しての講演があった。鉄川進氏の祖父、鉄川与助は九州を中心に

数多くの教会の建築を手がけた人である。鉄川与助が造った教会は明治から昭和初期にかけての西洋建築で、構造だけではなく優れたデザインが特徴で、国指定・県指定の重要文化財となっているものが数多くある。

長崎の教会群を世界遺産に、ということでは現在長崎県内の教会などキリスト教関連施設や史跡がユネスコの世界遺産暫定リストに掲載されている。その中には国宝の大浦天主堂や重要文化財の旧羅典神学校、旧五輪教会堂、青砂ヶ浦天主堂など20のキリスト教関連施設・史跡(この中で5つの教会が鉄川与助の設計・施工がある。これらの建物について豊富な資料をもとにその特徴を説明してもらった。建築士の立場からの理路整然とした解説を聞くと、それぞれの建物の価値がぐんと上がって感じられ、「長崎の教会群を世界遺産に」とは夢物語だと思っていたが、



長崎県にはキリスト教の拠点であるセミナリオやコレジョが日本で初めて作られ、天正少年使節を送り出したかと思えば、キリスト教弾圧や高原の乱では壊滅した村が生じたり、隠れキリシタンがいたりなど、キリスト教に関するものはい

る所にある。それらは日本におけるキリスト教の伝来・布教・弾圧の歴史そのものである、などという点にまで思いを馳せながら講演を聴くことができた。

今回の総会はこのように素晴らしい講演があったにもかかわらず参加者が少なく、残念であった。同窓会への参加者を増やすための名案がなかなか浮かばず、結局はそれぞれが声を掛け合って友人知人を誘おうということになった。他支部で何かいい知恵をお持ちの所は教えていただきたいものである。



ドイツで10年目に思うこと

税田 真理子 (大47国)

ドイツに暮らし始めて9年が経つ。わたくしの勤務するギムナジウム「Salzmannschule」での日本語教育も今年度は10年目を迎えることとなり、この学校で第二外国語の選択必修科目として、日本語授業の立ち上げから関わることができたことに感謝している。旧東ドイツでは、あまり日本や日本人が知られていない。これは外国人(日本人)として暮らす者としては苦勞する場面も多い。しかし日本や日本人、日本文化があまり知られていないこの土地で、学校教員として日本語教育を通し、それらを伝えていくことができることに、特に大きな意味を感じる。

現在6学年から12学年までが日本語の授業を受けている。6学年から10学年までは必修であり、高学年の11・12学年でも選択して続けることができる。学校の卒業試験では口頭試験が受けられるようになっている。この卒業試験を含め、Salzmannschuleでの日本語教育を運営するにあたる全てがわたくしの課題である。加えて副担任などの仕事もあり、また授業以外にも生徒たちのために講演会や様々な文化活動の企画・運営を行っている。

わたくしが現在の職に就き、現職を続けられるのは多くの方々のお蔭であることは言うまでもない。福岡女子大学在学中にドイツ語を勉強し、ドイツ研修旅行に参加し、大学・大学院時代の様々な出会いを通して世界が広がり、将来の方向性も決まった。ドイツでも日本人・ドイツ人に限らず様々な方々に支えられ、いろいろなことを教えていただきながら、日々生活している。毎日生徒のために授業をし、生徒が喜ぶ顔を見ることに幸せを感じる。そういう風に暮らしていると自然にチャンスが訪れてくる。大切なのは適切な時期に正しい人物に会うということ。自分に確固とした意志があれば、何が正しいのかも自然に見えてくると思う。そして御縁があれば、全てが自然の流れの中で進んでいく。

わたくしは子供のころから海外生活を夢見ていた訳ではなく、縁や運命で自然と海外に住むこととなった。人生において何を必要としているのか、何に喜びや生き甲斐を感じるのか、それが第一に知っておくべきことであり、それらを日本で達成できるのなら、それが一番なのかもしれない。しかし自然の流れで、もしわたくしのように海外で生活することになれば、異文化や自己の存在に悩むかもしれないが、自分の核となるものを信じ、毎日何を見かけながら楽しみながら生きていただければと願っている。

勤務先のギムナジウムの学生が岐阜県高山市でホームステイし、異文化を体験

取材した日の光景や天気、顔などが甦ってきます。それらが心にこれだけ残り、未だに勇気づけてくれるのは、お会いした方の多くが「仕事に対して、他人に対して、自分の役割に対して、『骨惜しみ』をしない」人々だったからのように思えます。

つい先日、江戸時代から代々続く老舗の奥さんに取材する機会がありました。ちょうどお盆前の繁忙期。電話を受け、従業員に指示し、お客さんの応対や運送の手配をくるくるとこなしながら、私の取材にも応えてくれました。その上に、「そうそう、この話は郷土史家の〇〇さんや、教育委



気学に魅せられて

山下 眞理恵さん (専23生)

7月末の暑い昼下がり、大名の洋裁店「ぶりんせす」に山下先輩をお訪ねしました。「中央区役所の斜め向かいです。」のご案内通り、目指す洋裁店はすぐに見つかりました。山下先輩は襟にきれいなピンクの縁取りがある真っ白いスーツ姿で迎えてくださいました。ご挨拶と取材を快諾していただきましたお礼の後、早速質問。

「気学との出会いはいつごろですか?」
「学生時代に、たまたま同級生3人と気学の勉強に行ったら、その中の一人の死期を言い当てられたんです。人の生死まで分かる学問ならばと真剣に勉強しました。母親が洋裁店を経営していたので、手伝いながら、夜仕事が終わってから、友達と一緒にいたら、家庭の理解もあつて勉強できました。」

「私がやっていることは単なる占いではないんです。あまり一般的ではないけれど、昔からある学問なんです。生年月日をお聞きすると、その人の小さいころから今までの生活環境や、環境がだいたいわかりますよ。」
「若さの秘訣を教えてください。」
「何も無いです。今でも店に出て縫物をしていきます。針に糸も通せません。脳に時々油をさして、思い出すようにしています。」

「同級生の方とは連絡されていますか?」
「まだ天神の Newtown に学校があつた年に、高校の同級生と大勢で入学し、今でも毎年7人で同窓会をするんです。昔は誰もがカメラを持っていたという時代ではなかったのですが、集まると杉田写真館に行つて写真を撮りました。当時の記念写真が十数枚残っています。つい最近も桜の咲くころ、皆で集まりましたよ。」

個人的な悩み相談や着るもののアドバイスもいただき、とても楽しい時間を過ごせました。
最後に「(第4代会長の)富安先生のお洋服をずっと縫っていて、時々家にも遊びに行つていました。亡くなられたのが残念です。」とおっしゃっていました。
(取材 中野、仮屋)



の生活環境や、環境がだいたいわかりますよ。」

の同級生と大勢で入学し、今でも毎年7人で同窓会をするんです。昔は誰もがカメラを持っていたという時代ではなかったのですが、集まると杉田写真館に行つて写真を撮りました。当時の記念写真が十数枚残っています。つい最近も桜の咲くころ、皆で集まりましたよ。」



在学していた20歳前後の頃、50代半ばといえはもう人生の酸いも甘いもしっかり重ねた「初老」のイメージでありました。そしていざ自分がそうなつてみた今、とても「達観」「落ち着き」とはほど遠く、未だにあたふたと右往左往しています。
昭和52年に国文科を卒業して、ラジオ局に勤務した後、独立してフリーランスのライターになり、今に至りました。雑誌社や企業からの依頼を受けて取材をし、原稿にまつめるのが主な仕事です。
25年近くペンとノート片手に、お会いした人は数知れず。取材するのは、中には企業のトップや政治家など有名人もおられますが、ほとんどがいわば市井の無名の方々です。農家、職人、商家、料理人、主婦、学校の先生、市役所の方...華々しく注目されたり賞賛される



富松 由紀 (大24国)

後ろよりも、「前へ」

わけでもなく、決して能弁でもない方たちから滲み出てきた、さまざまな人生模様。その一つ一つが、まだ土のついた鉱物だとすれば、それを磨いて宝石にし、一人でも多くの人に見ていただく(伝える)のが自分の役割だと思ってきました。

「私もこれまで、何十人、何百人の方に助けてもらつて、ご迷惑もかけて、ここまで来たの。そのお返しをあなたにしてるのよ。ペイ・バック(お返し)というより、ペイ・フォワード(前へ)よ」とにっこりしながら。私の取材メモに、また一つエネルギーの源が加わりました。自分の人生もそろそろ終盤期。今までも多くの方に返しそびれたものを、次の世代に渡していく番になったよう



富松氏は毎日新聞夕刊(水曜)に「うちのみご飯」を連載中です。